

## 空洞の家

原点は、簡素なものだ。

物事はいつだって単純だったのである。土を掘って住処にするも、木をくりぬいて住処にするも、石を積み上げて住処にするも、住まうための純な空間は‘簡素’なものであると思う。しかし、これらの空間は‘簡素’が故の消極的産物ではない。むしろ生活に即し、かつ可能性に溢れているものなのである。

‘簡素’な空間の基本は、ひとつつながりの空間で構成されていることが挙げられるが、現代でプライバシーすら無視し空間をひとつつながりにすることは、まず成り立たない。しかし、空間をひとつつながりにすることは、生活や雰囲気や家族と共有することができることとなるのではないか。私は、住まい手が家族の存在を感じる中で、同じ雰囲気のもとに生活することを重要視しているのである。よって現代に適合する‘簡素’な住宅を設計することとした。

### 〈形態操作〉\*fig.1

本計画は‘簡素’で原始的な空間のひとつである 洞窟 をモデルとする。それは奥行き長い本計画地に合う空間形態をもちあわせているからである。

形態としては、山岳形態を模した切妻屋根形状の空間に、洞窟形態を模した筒状の空間を組み合わせるといえる。洞窟的空間の前後・上下・左右にそれぞれの機能に沿ったスケールを与え、この空間に壁を立てることなく領域を分ける。洞窟的空間は、自らが空間であるにもかかわらず、それひとつで、空間領域を隔てる役割をもつ。

### 〈内 / 内と外 / 外〉\*fig.2

住宅には、「内」と「外」がある。「内」は内部空間で「外」は外部空間である。当たり前のことだが、人が生活するうえではこれらの行き来のうで成り立っている。そして、現代の住宅は「内」と「外」の境界がはっきりしている。例えばここで、日本家屋における土間空間を振り返ってみると、そこでは「外」からのアプローチ部分に加え、炊事場が設けられている。そこは「内」でも「外」でもない「内と外」の空間なのである。洞窟は、一端を外部に開き、もう一端を内部に閉じており、その濃淡がゆえに「内と外」の中間空間を含有している。それがあからこそ内から外へ、外から内へ領域を還元しあうことが可能になるのである。

### 〈奥〉\*fig.3

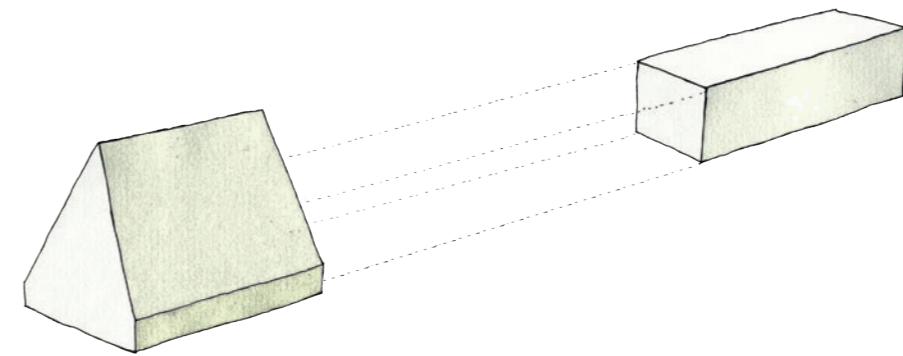
洞窟は奥が深いイメージがある。奥へ進むにつれて、その距離感のせい、ひとつつながりで何も境界線がなかったにもかかわらず、その奥は、まったく別の空間のように感じる。さらに、洞窟は曲がりくねっており直接的な壁がないにもかかわらず、入り口が見えないという現象も起きる。その奥性を活用し、奥にはプライベート領域を設け、縦割りでない空間構成に努めた。

### 〈共有〉\*fig.4

共有を求めるために洞窟を用いたことは先に記した。ここでは、本住宅において何を共有することに努めたか言及する。それは、空気である。洞窟的空間はFLより+600mmの位置からある。よって隙間ができる。そして、2F部分のスラブと屋根の内壁の間には200mmの隙間ができている。そのわずかな隙間は、視線を交わすことなく、家全体に空気を流すのである。

つながりのある空間は、つながりのある領域を生み、人をもつなぐものだ。この‘簡素’な家は、可能性を広げてくれるのである。

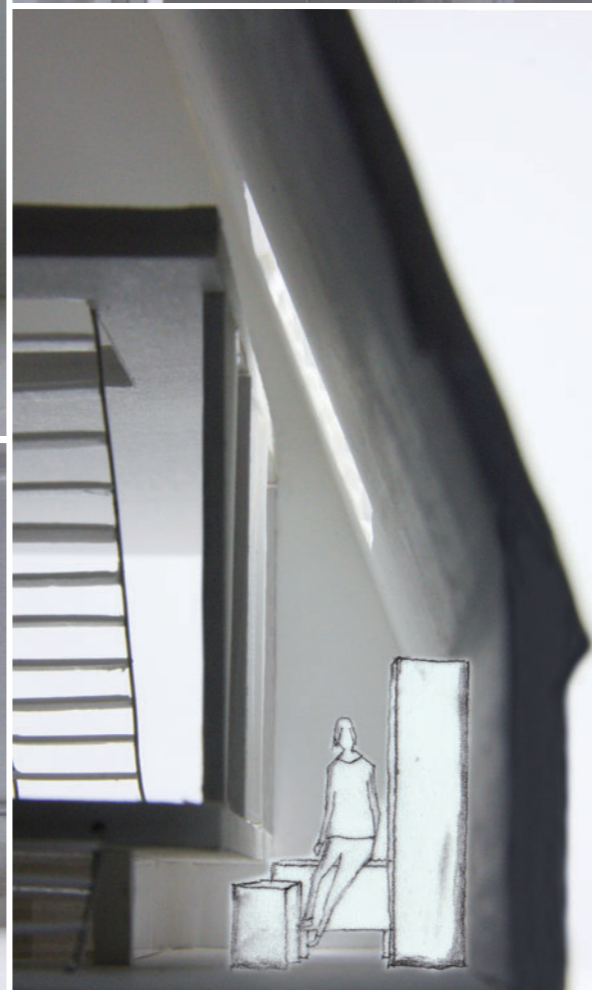
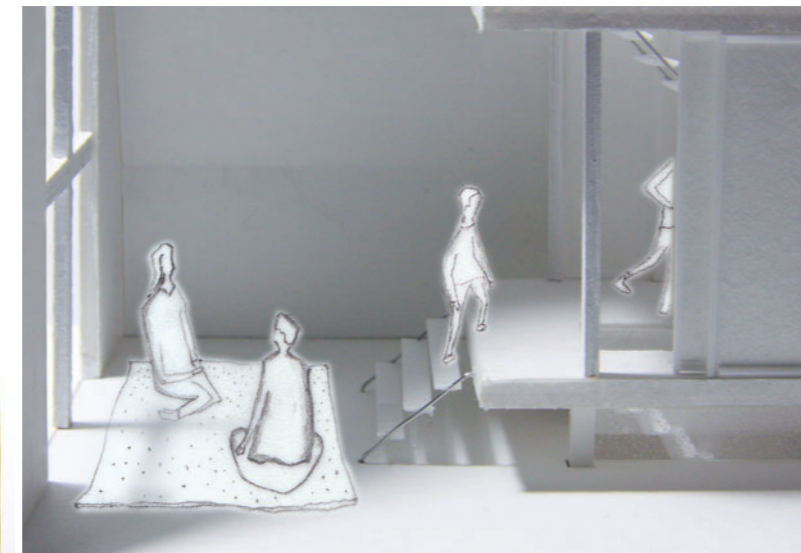
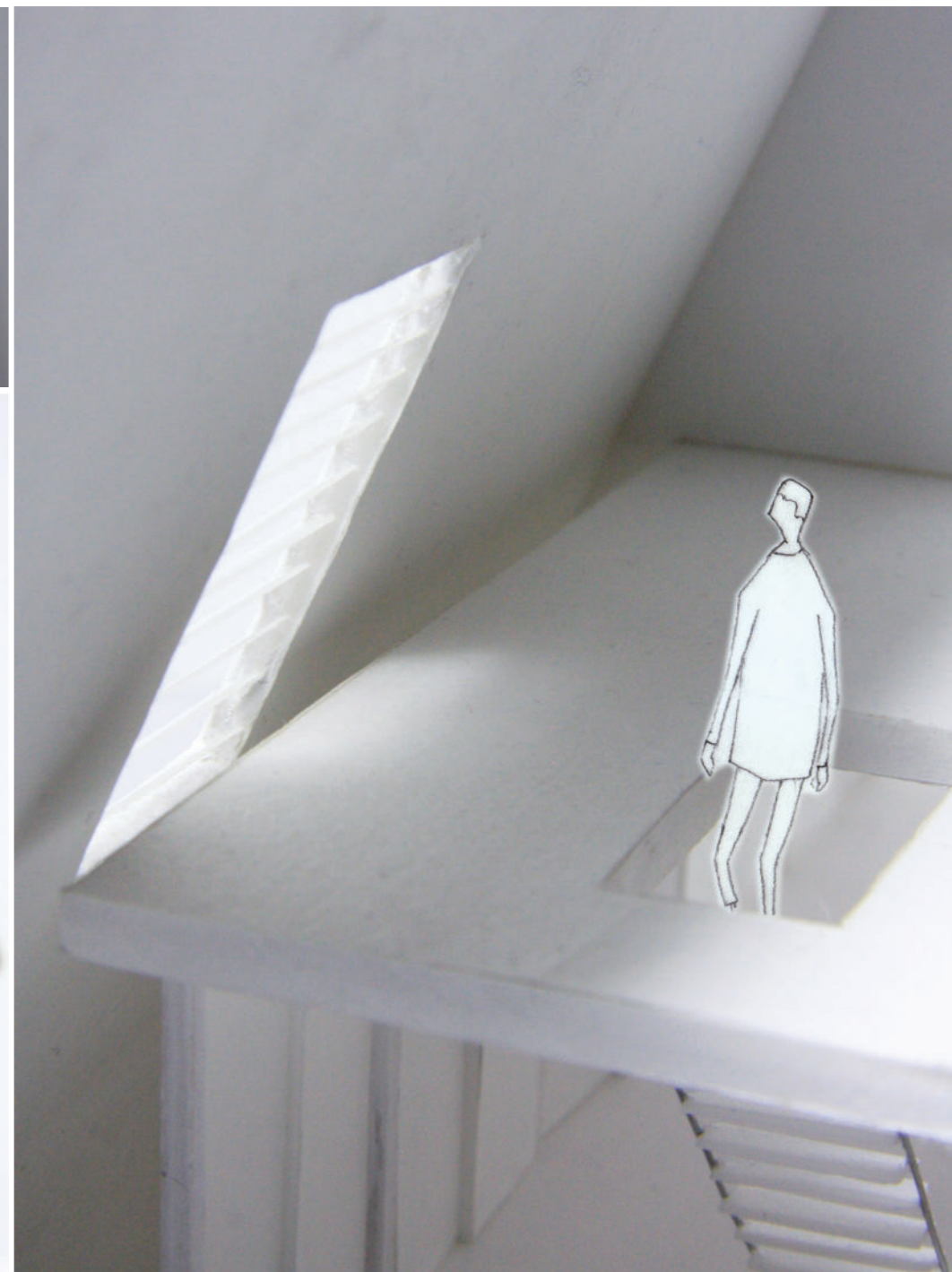
\*fig.1



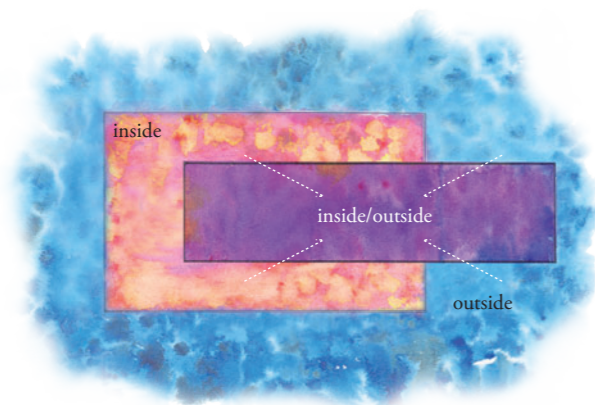
山岳的 空洞  
-mountain void-

洞窟的 空洞  
-cave void-



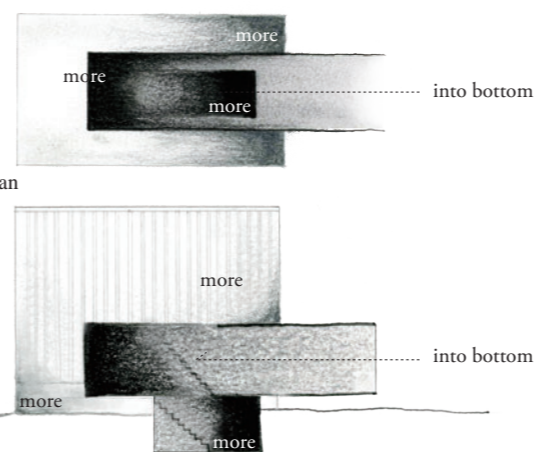


〈 内 / 内と外 / 外 〉



\*fig.2 image plan

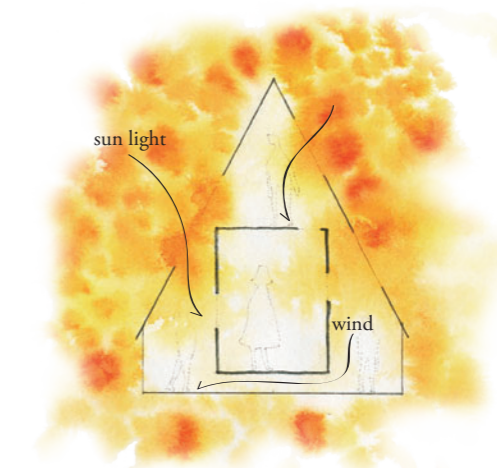
〈 奥 〉



\*fig.3-1 image plan

\*fig.3-2 image section

〈 共有 〉

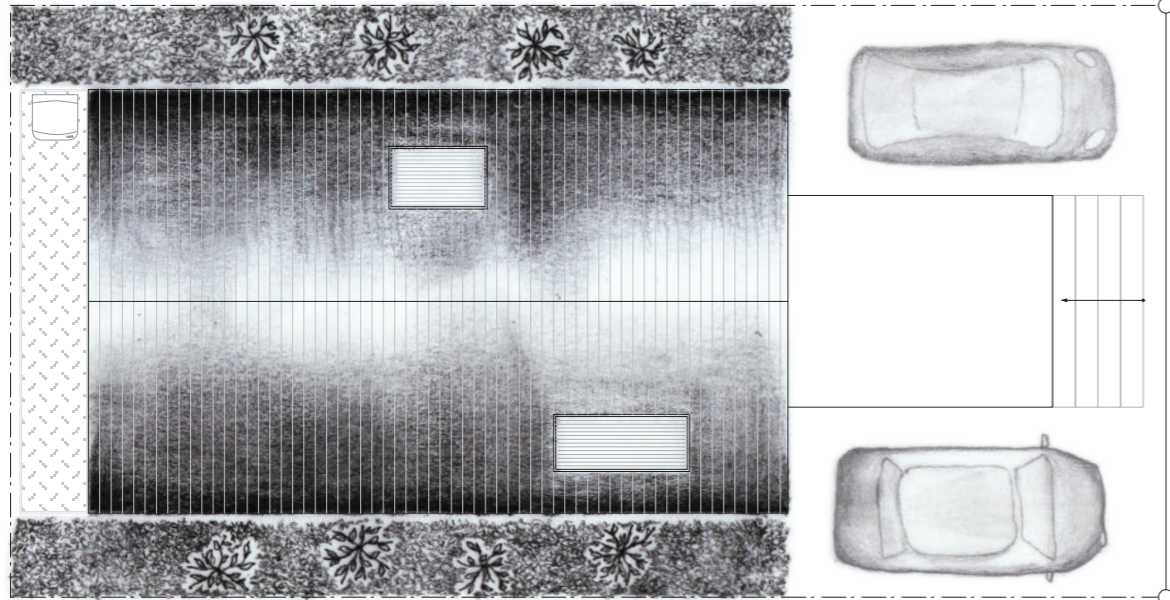


\*fig.4 image section

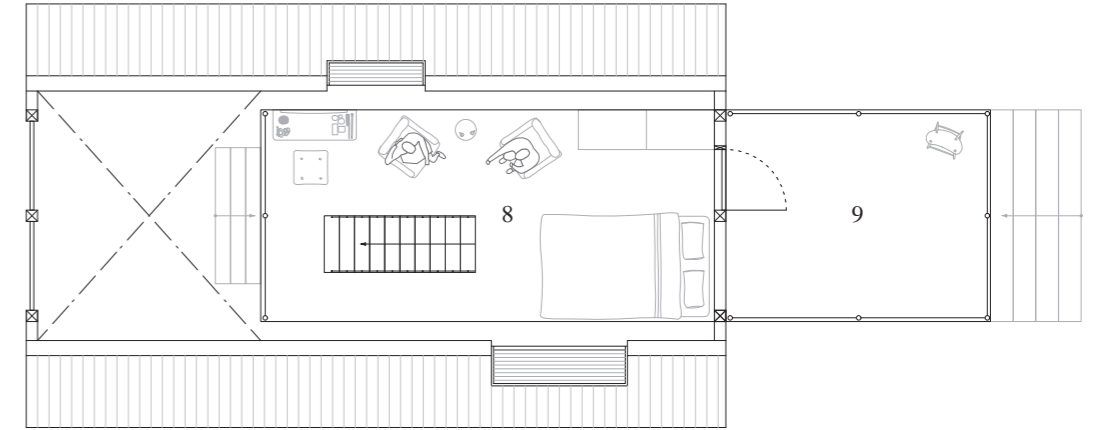




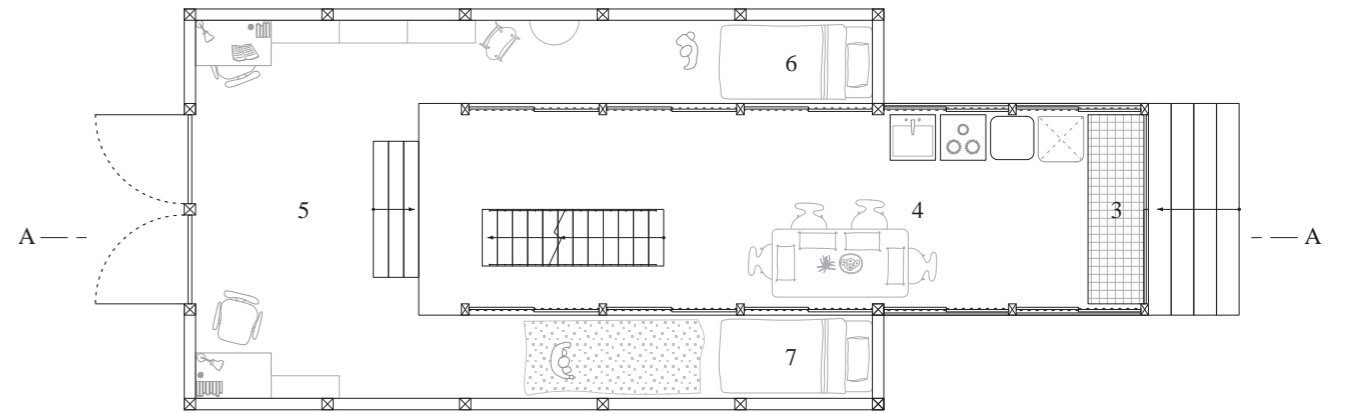
PLAN & SECTION ALL SCALE:1/100



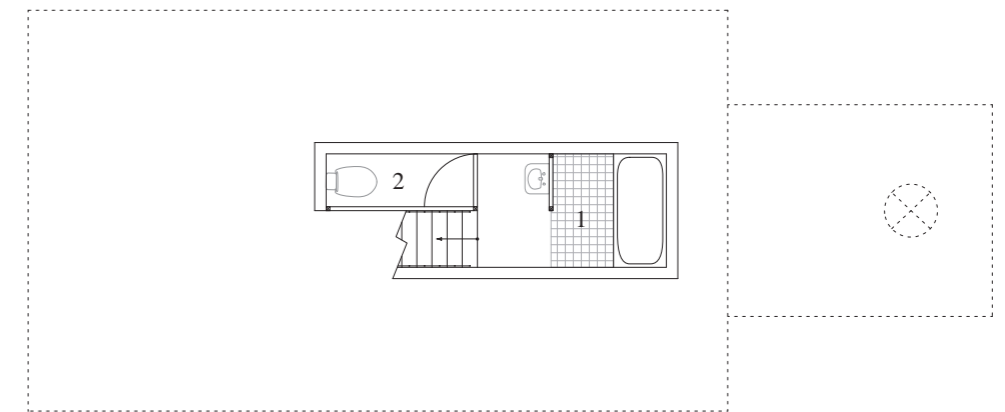
site plan



2F plan



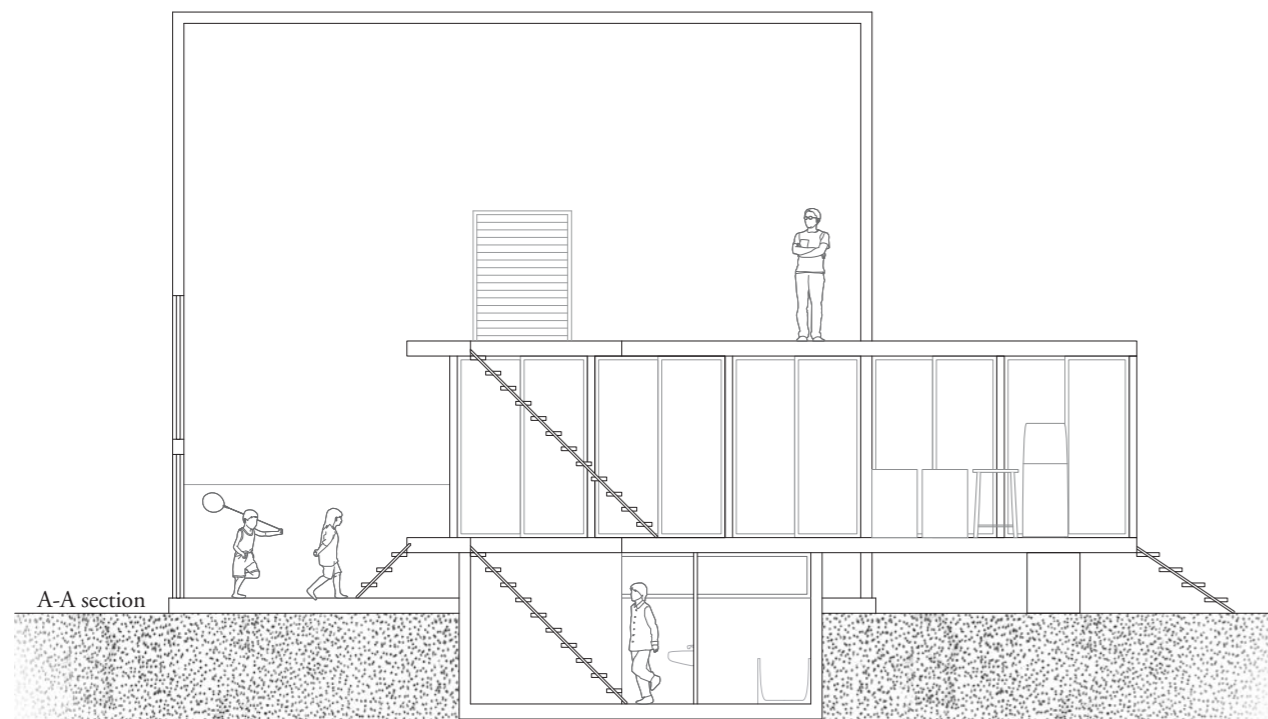
1F plan



BF plan

- 1.Bath room
- 2.Toilet
- 3.Entrance
- 4.Dining Kitchen
- 5.Flexible room
- 6.son`s space
- 7.daughter`s space
- 8.Parents space
- 9.Balcony

└ ( 普段は子供部屋として、休日には家族の憩いの場として、またゲストルームとして、)  
パーティをするときは 4. と繋げて大空間にして、またテラスと繋げて使える。 )



用途地域：第一種中高層住宅専用地域  
 敷地面積：119.33 m<sup>2</sup>  
 建築面積：58.825 m<sup>2</sup>  
 延べ床面積：103.065 m<sup>2</sup>

